

各関係機関の長 殿

鹿児島県病害虫防除所長

平成18年度技術情報第10号（ハスモンヨトウ）について（送付）

このことについて、ハスモンヨトウに関する情報をとりまとめましたので送付します。

平成18年度 技術情報第10号  
（ハスモンヨトウ）

県内各地に設置してあるフェロモントラップにおいて、ハスモンヨトウの誘殺虫数が増加しています。今後キャベツ、ダイコン、ハクサイ、豆類等で被害の多発が予想されますので、適切な防除に努めてください。

1. 対象病害虫      ハスモンヨトウ

2. 対象作物      根深ネギ、キャベツ、ダイコン、ハクサイ、サヤイエンゲン  
                    エンドウ類、ソラマメ、イチゴ、トマト、ピーマン、花き類等

3. 発生状況及び情報の根拠

- (1) 9月の巡回調査では、発生ほ場率は根深ネギで83%（平成17年47%）と平成より高く、キャベツでは25%（平成17年27%）と平成並であった。（表1）
- (2) 農業開発総合センター大隅支場のフェロモントラップにおける9月の誘殺数は、11,047頭（平成17年12,692頭）で平成よりやや少なかったが、9月中旬に増加した。出水市、さつま町、川辺町、曾於市のフェロモントラップでも9月の誘殺数が増加している（図1、図2）。
- (3) 向こう1か月の天候は、気温は平成並か高いと予報されている。

4. 防除上注意すべき事項

- (1) 卵塊や分散前の若齢幼虫を発見したら、速やかに寄生葉を摘み取り処分する。
- (2) 老齢幼虫になると薬剤が効きにくくなるので、発生初期の若齢幼虫を対象に防除する。若齢幼虫は葉裏を集団で食害し、表皮だけを残して白変葉となるのでこれを目安にする。
- (3) 施設では換気部、出入口に防虫網を設置し、成虫の侵入防止に努める。
- (4) 地域により発生時期が異なるため、ほ場を見回り適期に防除する。
- (5) 同一系統薬剤の連用を避け、作用性の異なる系統薬剤とのローテーション散布に努める。

表1 ハスモンヨトウの発生ほ場率（%）

作物名	本年	前年	平成
根深ネギ	83	43	47
キャベツ	25	50	27

9月下旬調査

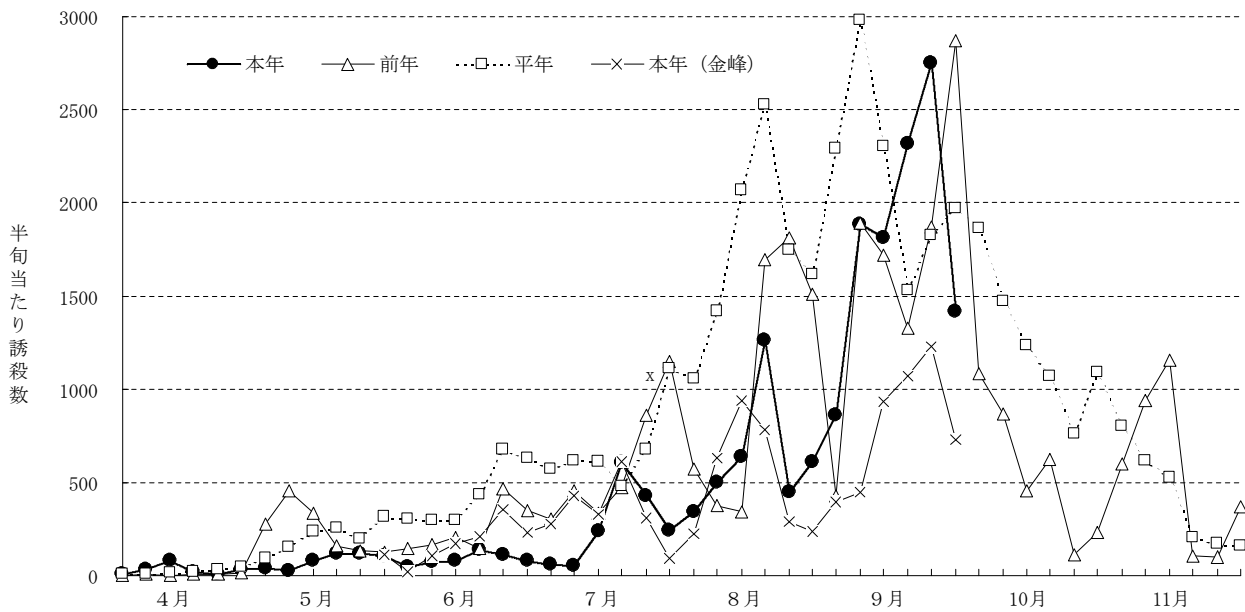
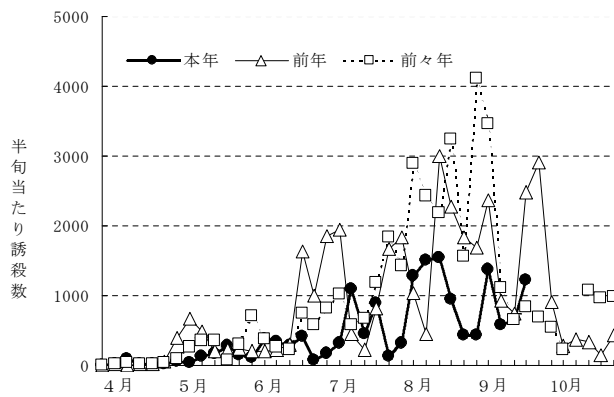
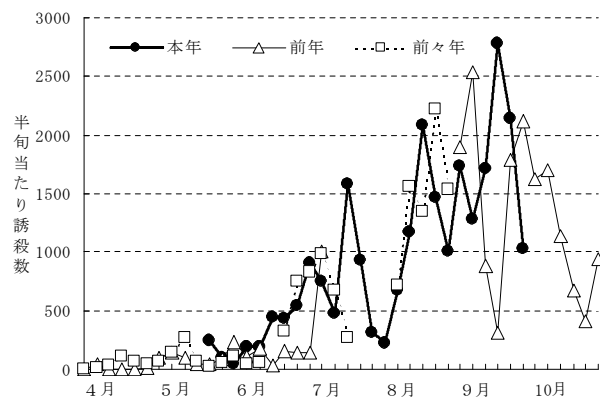


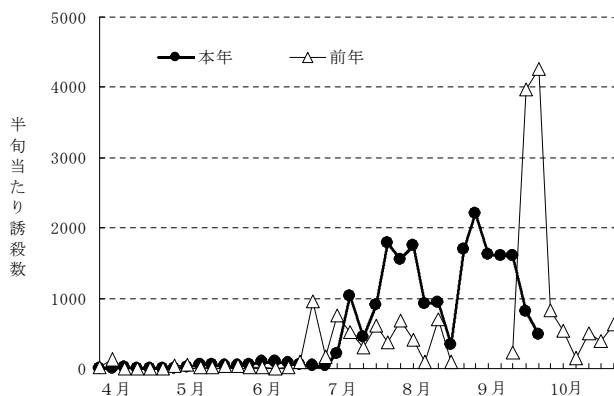
図1 フェロモントラップによる誘殺状況（本年～平年：鹿屋市大隅支場，本年（金峰）：開発センター）



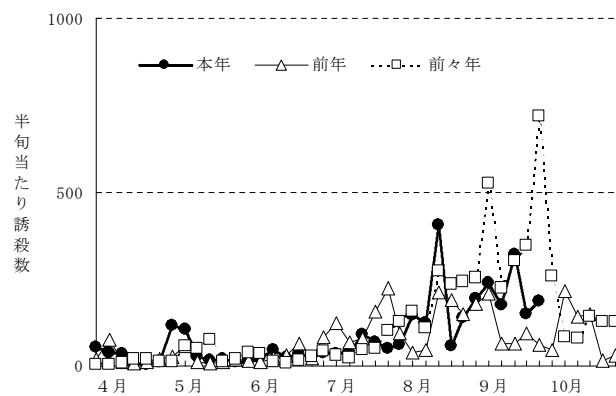
ムシダスによる誘殺状況（川辺町古殿）



ムシダスによる誘殺状況（出水市平和町）



ムシダスによる誘殺状況（曽於市末吉町）



ムシダスによる誘殺状況（さつま町湯田）

図2 県内各地の誘殺状況